

平成23年2月

福田敏秀 学位論文審査要旨

主 査 黒 沢 洋 一
副主査 吉 岡 伸 一
同 浦 上 克 哉

主論文

要支援高齢者の在宅継続支援の要因に関する研究
—タッチパネル式認知機能評価法（TDAS）の有用性—
（著者：福田敏秀、浦上克哉）

平成22年 米子医学雑誌 61巻 131頁～141頁

審査結果の要旨

本研究は在宅高齢者に対して、タッチパネル式認知機能評価法（TDAS）と要介護認定調査2006（基本調査）を用いた評価を行った。また、同居家族に対して一部改訂したZarit介護負担感尺度日本語版（J-ZBI）による調査を行った。調査については、同一対象者に2年間の追跡調査を行い、その実態から高齢者の家庭でどのように困難が発生するかを分析し、支援方法を検討したものである。その結果、在宅高齢者は認知機能が低下するとき生活機能ADLの低下を伴い、また、要介護状態へ移行する危険因子として認知機能低下との関連が示された。さらに、家族介護者のうち配偶者の介護負担感が検出され、配偶者に対する支援の重要性が示された。高齢者が在宅生活を継続するためには、認知症予防を目的とした早期介入と配偶者の介護負担感に対する支援が求められる。本論文の内容は、高齢者介護、福祉を含めた保健学の分野で在宅高齢者支援の方向性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたと認められる。